



こんなことあったよ！ のしろ白神ネットワークの活動レポート

平成 21 年 11 月 14・15 日(土・日)
青森県八戸市のまちづくり活動視察・研修 編

11月14日、15日にごみナビボランティアの方々とともに、青森県八戸市へ行き、NPO法人「水辺の楽校まべち」が取り組んでいる馬淵川(まべちがわ)の水辺空間づくりと、NPO法人「ACTY(アクティ)」主催の「八戸港24時間プロジェクト」を視察してきました。

ONPO法人「水辺の楽校まべち」

「水辺の楽校まべち」では、馬淵川の河岸に「わんど」と「せせらぎ」という空間をつくり、自然体験学習や冬鳥観察会など、川の文化の次世代継承や環境保全などに取り組んでいます。「わんど」は、ひょうたん島をイメージしてつくられた、湾曲した地形を活かした浅瀬で、「せせらぎ」は、人口の池と川で構成された水辺の空間です。「わんど」や「せせらぎ」には、まだ護岸工事などがされてなかった時代の生態系を垣間見ることができ、地元の子どもたちには良い学びの場となっているようです。

活動紹介の中で、「わんど」に流れ着くゴミ処理を、地元学校の子どもたちも一緒に取り組んでいるとの話がありました。地元を巻き込んだ活動へと発展していることが、活動継続していく一つのカギになっていると思いました。

ONPO法人「ACTY」の「八戸港24時間プロジェクト」

「八戸港24時間プロジェクト」は、「地方の元気再生事業」の一環で行われ、八戸港を中心とした八戸の様々な魅力を伝える2日間に渡るツアー企画です。ツアーは、「港」を拠点として、徒歩、電車、船などの移動手段を組み合わせた八戸の観光名所を巡る旅となりました。随所に名所の説明を交えながら、八戸を十分堪能できる内容であったと思います。

今回のツアーにおいて、神社、漁港、屋台村、朝市、公園など様々な箇所をまわりましたが、これは多種多様な方々との連携があればこそ実現可能な内容であったと思います。もちろん、全てがスムーズに進んだわけでは無く、いろいろな壁もあったようですが、それらを乗り越えて、事業の実施に至った ACTY のパワーに驚かされます。

「地方の元気再生事業」は他に、「八戸みなと魅力体験



NPO法人「水辺の楽校まべち」の方に、馬淵川周辺の取り組みを紹介してもらいました。

右の写真が「わんど」です。



NPO法人「ACTY」代表の町田さんと駅で初対面。事業趣旨を聞いたのち、電車で目的地まで移動。



電車をおりてからは歩いて蕪島まで移動。ところどころに手作りの看板がありました。





こんなことあったよ！ のしろ白神ネットワークの活動レポート

ツアー」や「ネガティブな地域資源を活かした特産品づくり」、「情報発信 いさば！？かっちゃブロッガー」など、様々な企画を実施した、または実施予定だそうです。ものすごい行動力です。

2日目にACTYの皆さんとの意見交換会があり、様々なお話を聞くことができました。ACTYは、協力的リーダーシップをとる代表の町田さんがいて、その町田さんを中心に行動力のあるメンバーが集まって活動しています。町田さんは、一度やると決めたことはとことんやるという方らしく、メンバーの方いわく、町田さんについていってるだけ、との話がありました。しかし、町田さんだけが忙しく動いているのではなく、役割分担が出来ており、それぞれがうまく機能しながら活動をしています。町田さんは、ある苦手な分野の問題がある時、その分野が得意な人を仲間に入れるそうです。そのようにしてネットワークが広がり、より大きな活動につながっていくのだと感じました。町田さんは、行動力があるだけでなく、人をすることも長けていて、まさにリーダー、という印象を受けました。

ACTYの皆さまのお話は、非常に参考になりました。それを、今後の活動にどのように活かしていくか考えていく必要があると思いました。非常に実りの多い研修になったと思います。

文： 市民活力推進課 小林 淳

あいにくの低気圧が近づいている中、八戸の視察に参加してきました。最初のフィールド視察、馬淵(まべち)川の河川敷。荒地だった河川敷を魚が寄り道できるように流れを変え、魚がいると鳥も来る、葦原を残しておくところは繁殖地になり、動物や大型の鳥もやってくる。人が手を加えることによって川本来の姿に戻り、川が危険ということではなく、「水辺の楽核今として子どもたちは魚を捕ったりして遊ぶことができる。自分たちが楽しむためにはきれいにし、手入れもしなくてはならない、それが人にとっても自然にとっても良いことだ」という環境教育につながるすばらしい活動だと思いました。

次に、NPO 法人 ACTY の企画する「八戸みんなで描く海とまちの物語」八戸港 24 時間プロジェクトなるものを体験しました。夜みなとツアー・朝みなとツアーと銘打って、どんなことをするのだろうと不安になりながら、ACTY の皆さんに案内されるままついていきました。本八戸から列車に乗り、鮫駅で



ウミネコで有名な燕島神社。シーズンになるとウミネコで島が埋まるそうです。

天気が良ければ、八甲田山の向こうに夕日が見えるはずでした→



じゃっば汁をちそうになりながら、屋形船で移動



↑ 屋形船から見た景色



こんなことあったよ！ のしろ白神ネットワークの活動レポート

下車してから徒歩でウミネコで有名な蕪嶋神社へ。参拝して宮司さんのお話をうかがってから、ここから八甲田山の向こうに夕日が見られるはずが、風があつただ暗いだけでした。そこから屋形船で館鼻漁港へ。天気が良いとネオンを海側から楽しめたのですが、中で食べたじゃっぱ汁もそこに、何とも長い30分間でした。

館鼻漁港で下船して、地元の酒屋のご主人からお話を聞きながら高台の公園へと歩いいくと、八戸港がぐるっと見渡せるグレットタワーなるものがあり、八戸の街の明るさに驚きました。この公園には夜カフェが用意されていて、熱燗やイカ刺し、イカ焼きなどが振舞われ、さすが水揚げ日本一のイカはうまい！とお腹いっぱいいただきました。その後、中心地に車で移動。みろく横丁で解散して、夜の部は終わりました。ここは三日町から六日町につながる建物の間にあって、多くても8人くらいが座れる屋台形式の飲食店街です。これから店を始めたいという人が何年か交代でやっているようですが、どこもお客さんがびっしりで、とても活気のある横丁でした。

翌日は、朝みなのツアーです。朝6時半、館鼻漁港へ向けて出港です。天気が悪いと聞いていましたが、朝日が迎えてくれ、何とも気持ちの良い15分間の乗船でした。この港では日曜日ごとに朝市が開かれ、毎回300以上の出店があり、この日も3万人の人出があるかと思われるくらい凄い人・人・人でした。ここでは名物のせんべい汁を食べ、おいしい朝ごはんに満足でした。ただ、1時間では半分も見て回れなかったのが残念でした。

ここからまた船に乗って、海からの景色を眺め、種差海岸の遊歩道を散策する予定でしたが、荒波のため出港できず、車で移動しての散策となりました。種差海岸は天然芝で、今までの漁港とは違ったきれいな景色のところでした。ネイチャーガイドのお話を聞きながら、1時間ちょっとの駆け足の散策でした。ここは、昔から有名な文化人が訪れた場所というだけでなく、地域の人にも親しまれているところなので、ボランティアが草刈りや下刈りをするけれども、散歩をしている人だって、ごみを拾う、皆がそういう心がけだからごみも散らかっていない。本当にモグラの土の山だけがポコポコありました。

ツアーはこれでおしまいです。海から拓けたまち・八戸を売り込もうとする企画や街の皆さんに協力を求めて、人も地域も活気づく地域資源を生かした取り組みに感心させられました。また、実際に活動しているメンバーが10人くらいで、そ



↑マイクを持っているのが男山酒造のご主人で、ACTYの皆さんに協力してこの事業に参加しているそうです。



夜カフェでは、新線なイカやホタテでもてなしをうけました。



みろく横丁です。屋台形式のお店が並んでいます。





こんなことあったよ！ のしろ白神ネットワークの活動レポート

れぞれ仕事があり大変だろうな～と思っていましたが、やっ
ていて楽しい、次は何をしようかとみな意欲満々で驚きまし
た。今回の視察はとても収穫のあるものでした。ありがとうござ
いました。

文：ごみナビ実行委員会 見上 淳子

1.はじめに

現在「水辺の楽校・まちべ」となっている「八戸整備地区」
は、昭和30～40年代(今から40～50年前)には、今よりもっ
とヨシ原や干潟が広がっていて、水辺に住む多くの生き物た
ちの姿を見ることができました。川にはメダカが泳ぎ、カエル
の鳴き声が聞こえ、トンボが飛んでいたり、ヨシ原にはヨシキ
リ、干潟には多くの水鳥の姿を見ることができました。こうし
た日本の原風景が失われてるのを憂い、「人が人として生き
る自然環境」を残そうとして、平成18年、馬淵川の環境保全、
川の文化次世代継承などを掲げ NPO 団体設立に向けて有
志が集まり、同年8月に役員7人・会員13人からなる「特定
非営利法人水辺楽校・ぴちゃぴちゃランド」を立ち上げまし
た。

2.活動を聞いて

①川くだりでは 1)川に落ちたらどうするかなど、全員が安
全講習を受ける。2)自分で漕ぎ、風・潮・干満など水に触れ
体で感じる「自然」を体験させる。←現代っ子には貴重な体
験である自然の優しさと怖さを

②冬鳥観察では、近寄ると鳥は逃げてしまうので対岸から
双眼鏡や望遠鏡で観察するようにして、集会所では学習会
を行っています。

③事業の一つとして造られたワンド(人工水辺)ぶが、フナ
などの魚・ゲンゴロウなどの昆虫・カエル、そしてサギなどの
水鳥といろいろな生物が見られるようになり、また子どもの
観察場所・遊び場としても活かされている

④湧き水の水路にはホタルが見られるようになった。

3.学んだこと・感想など

①馬淵川川岸の自然回復「子どもたちの歓声」が聞こえる
人間回復の場となったこと。

②私たちおとなを含め「川と共に生きる人間」としての子
ども達と一緒に遊び学びながら、徐々に「自然環境」び大切さ
を伝えていくべきであること。

③私の幼い頃の米代川河川敷の思い出や、今度の馬淵川



朝市会場へ漁船で
移動。朝日がとても
きれいでした。



朝食に名物せんべ
い汁を頂きました。



朝市は沢山の人で込み合っていました。様々な屋
台が並んでおり、食事から買い物まで全てこの会
場で完結できます。



漁船での移動中、カモメにカッ
パえびせんをこちそう。



こんなことあったよ！ のしろ白神ネットワークの活動レポート

の様子を見て、米代川にもこんな場所がほしいものだと思います。

④「八戸地区水辺の楽校」運動を働きかけると共に、川に行く時の対策として安全対策・自然対策の注意もPRしている。

文：コンポスト見直し隊 伊藤 照子

<青森県八戸市視察日程等>

○視察日 平成21年11月14日(土)

○場所 青森県八戸市

○視察先 NPO 法人「水辺の楽校まべち」
NPO法人「ACTY」

○日程

【11月14日】

7:30 能代市役所本庁舎前発
(中央公民館、二ツ井庁舎経由)

12:00 昼食(青森市内)

13:00 フィールド視察 馬淵川の水辺空間
(NPO法人「水辺の楽校まべち」)

14:55 本八戸駅着 夜みなどツアー参加
(NPO法人「ACTY」の事業)

19:00 ホテルチェックイン(サンルート八戸)

【11月15日】

6:00 朝みなどツアー参加

10:15 八戸グランドホテル着

10:30 活動報告・意見交換会(ACTYとの)

12:30 ACTYとの昼食懇親会

13:40 八戸出発

18:00 能代市役所着



ガイドの方の案内で種差海岸を散策。漁港とはまた違った景色が楽しめました。



ツアーの最後は、ACTYの方々との交流会。ACTYの方々には意欲的な人ばかりでした。

お土産で頂いた「ウミネコバクダ」。
ウミネコのファンで悩んでいるのを逸手にとった商品です。

